

第2回例会報告（2013年11月発信）

11月も残りわずかとなり、冬の足音が近づいてきました。皆様いかがお過ごしですか？広島支部では11月24日（日）に第2回例会を比治山大学音楽棟音楽室で行いました。

下の写真は、当日の学内風景です。色鮮やかに色づいた紅葉もそろそろ見納めかと思わずシャッターを切りました。



そんな秋晴れの中、25名ほどの熱心な参加者の方々においでいただき、坂本真理子先生のご指導のもと、充実した会となりました。

「幼児へのリトミックは、理論より体験。知識よりも感覚を優先する」坂本先生はこのように語られ、さっそく「空間」をテーマにした活動に。





おなじみの「風船」になって膨らんだり縮んだり、狭い部屋から抜け出したり、「ビビデバビデブー」で水でっぼう。ピアノの演奏と制止に合わせて、いろんな物にタッチ。そして、恐怖の魔女の森へ。これはもう「きもだめし」。驚かす声と、先生の不気味なピアノと、動かない樹木や石になりすましたみんなとの、なんとも言えない恐怖体験～。(いいなー、今日も最高のスタート!) ふつうの音楽室で、実にさまざまな「空間」を感じることができました。



ところで、坂本先生の「空間」の学習の最中、わたしは、20年ぐらい前に参観した「ある研究授業」を思い出していました。それは、わたしが以前勤めていた小学校での授業。教科は算数。内容は「空間観念の育成」でした。算数の授業なのに体育館で、部屋中に段ボール箱を100個以上無造作に置いて。小さなマッチ箱ぐらいから巨大な人がすっぽり入るものまで大小も、形もさまざま。学習は、ただ、45分間そこで自由に遊ぶだけ。積み木遊びする子、かくれんぼする子、家をつくる子、乗り物ごっこ……。このような経験が、将来、立体の証明問題解決力や数学（幾何）的思考力の土台になるという授業でした。

やや唐突ですが、そのとき見た授業と、坂本実践の空間感覚育成とに、共通点がいくつも見いだせます。私の中で、音楽と幾何学との結びつきを感じた瞬間でした。ダルクローズ、奥深すぎ！

他にも、さまざまな学習プログラム。

同じメロディーを変化させて、3拍子・2拍子・4拍子の違いをとらえる。体を使うので、メロディーが同一なので、とてもわかりやすい。

「小さいうちは、努力しないでいい学習を用意して欲しい」

(坂本先生)

次に、テニスボールについて、3拍子、2拍子、そして5拍子に展開。連結ガッチャン（緊張と弛緩）。イオニア旋法にもとづく即興。



いやー、わたしの力不足で、すべてを書ききれません。ごめんなさい。是非、リトミック研修会にお越しください。実体験していただくのがなによりです。

次回も、2月に第3回例会を開催します。多くの方のご参加をお待ちしております。

(緒方 満)